

-臨床研究に関する情報および臨床研究に対するご協力のお願い-

国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター ACC科では、当院で診療の一環として取得された糞便検査の検査終了後に生じた残余糞便から作製したスライドの顕微鏡画像等を用いて、下記の研究を実施しています。

本研究では、研究に用いるデータから氏名やカルテIDなど、個人が分かる情報を取り除いたうえで取り扱います。そのため、研究開始後に「特定の方のデータだけ」を後から探して研究から外すことはできません。さらに、AIモデルの学習（ディープラーニング）を行うため、学習開始後は技術仕様上、特定の画像データを学習済みモデルから取り除くことが難しい場合があります。研究利用を希望されない場合は、当院での糞便検査が実施される際（検体の提出時）に、下欄の問合せ担当者までお申し出ください。お申し出があっても不利益が生じることはありません。

[研究課題名] 光学顕微鏡画像を用いた腸管3原虫のAI検出モデルの開発と臨床検体による検証

[研究対象者]

研究実施許可日から2030年3月31日までの間に、国立国際医療センターにて腸管感染症の診断目的で糞便検鏡が実施され、検査終了後に残余糞便が生じた方

[利用する検体・診療情報等の項目と取得方法]

検体：検査終了後の残余糞便から作製したスライドの光学顕微鏡画像（必要に応じて対応する検査情報）

情報等：対象原虫（赤痢アメーバ/ジアルジア/クリプトスポリジウム）の有無・種別、撮影条件（倍率・染色法等：取得可能な範囲）、画像品質（ピント・露出等）および検体背景（便性状・夾雑物等：取得可能な範囲）

検査終了後の残余糞便から作製したスライド標本の画像および検査情報から上記に該当する情報を収集し利用します。

※参照ラベル（原虫の有無・種別）の確定が困難な場合等には、保存されている残余糞便がある場合に限り、PCR等の結果を参照情報として用いることがあります（追加採取は行いません）。

[利用の目的]（遺伝子解析研究：無）

糞便検鏡における腸管寄生性3原虫（赤痢アメーバ、ジアルジア、クリプトスポリジウム）の見落としや結果のばらつきを減らすことを目的に、光学顕微鏡画像から原虫を自動検出するAIモデルを開発し、臨床検体画像で性能（感度・特異度等）を評価します。

[共同研究機関及び研究責任者]

上記の検体・診療情報等を、下記機関に対して、AI検出モデルの共同開発・検証のために提供します。

〔主な提供方法〕 直接手渡し 郵送・宅配 電子的配信 その他（ ）

1. 共同研究機関：東海大学 生体防御学講座・教授 渡辺 恒二

[研究実施期間] 研究の実施許可日より2031年3月31日までの間（予定）

[この研究での検体・診療情報等の取扱い]

本機構倫理審査委員会の承認を受けた研究計画書に従い、利用・提供する検体や診療情報等から氏名、生年月日等の情報を削除し、個人が特定されることがないように加工をしたうえで取り扱います。

[機関長、研究責任者、および、研究内容の問合せ担当者]

機関長：国立健康危機管理研究機構 理事長 國土 典宏

研究責任者：国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター ACC科 医師 川島 亮

研究内容の問合せ担当者：国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター ACC科 医師 川島 亮

電話：03-3202-7181（代表）（応対可能時間：平日9時～17時）

作成日： 2026年 3月 5日 第 2.0 版